

サヨリ

富山湾の春を代表する魚として魚価が比較的高く、大型のものは浜値で1尾1,000円以上の値がつく高級魚である。産卵期は4～6月（盛期5月）。流れ藻や磯近くの藻場（海藻）に卵を産み付ける。孵化後急速に成長し、6月下旬には4～9センチ程度になった稚魚が沿岸で見られるようになり、9月には12～20センチ、12月には22～30センチ程度に成長する。越冬後、雌雄ともに成熟し（生後1年）、産卵活動を行う。ここで死亡する個体もあるが、生き残った個体は夏から秋にかけて更に成長して尾叉長（びさちょう）30センチ（体重100グラム）以上となり、翌年、もう1度産卵に加わり、生涯を終える。従って、寿命は2年である。広域的な回遊状況は不明だが、夏から秋にかけてはごく沿岸域にのみ分布し、冬季には分布域を沖合に広げることがわかっている。



定置網でも少量漁獲されるが、90パーセント以上が、2隻の漁船がペアとなって網を曳きサヨリを獲る「二艘曳網」で漁獲されている。この操業風景は、3月下旬～6月上旬の富山湾の風物詩となっている。1993年頃までは、年に100トン程度が漁獲されていたが、1995年以降は20トン程度に漁獲量が落ち込んでおり、資源状態の悪化が懸念されている。何らかの資源回復策が必要であろう。ちなみに、日本海中部海域（新潟～兵庫の各県）では、近年、年間300～500トン漁獲され、うち石川で150～250トン、福井で40～100トン漁獲されている。（井野）

